

() 組 () 番 名前 ()

ユニット名 ○○○○○○○○

このユニットのゴール

行きたい国や、そこでできることを、しょうかいすることができる。

児童のコメント欄

世界の国々の言い方を知ろう。						
1	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
2	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
世界の国でできることを伝えよう。						
3	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
4	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
行きたい国とその理由をたずね合おう。						
5	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
6	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
行きたい国のしょうかいをしよう。						
7	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	
8	/ ()	○○○○ よくできた	○○○ できた	○○ まあまあ	○ 少しできた	

【使い方・留意点など】

- ・本時のめあてについて、自分がどの程度「できた」のかを自己評価する。
 - ・本時の学習を通じて気がついたことを記入する。
 - ・教科書に書いてあるこのユニットのゴールを明記することで、この単元では「何ができるようになった」のかを児童が自認できるようにする。
 - ・単元の中の、大まかな区切りごとのめあてを明記する。
- *『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』では、「とてもよくできた」「だいたいよくできた」「あまりできなかった」「全然できなかった」というような自己評価スケールが例として挙げられている。しかし児童の実態により、児童が自己肯定感をもてるよう、「よくできた」「できた」「まあまあ」「少しできた」などのように微調整を行うことも、許容されるものとする。